

生きるとは、森を進むようなもの。 当てもなく、むやみに歩くのは危険。

森の中を当てもなく、ぼうっと歩くのは、危険です。

森の中を歩いていると、同じような光景が繰り返されます。

森の中は、どこを見ても、木ばかりです。

当てもなく進んでいると、迷子になるでしょう。

場合によっては、命の危険に関わります。

森の中に入るときには、まず目的地を定めます。

次に、現在地を把握できる道具を持ちます。

食料、コンパス、無線機などです。

身支度を万全にするから、森の中を目的地に向かって、安全確実に進めます。

現在地を確認しながら目的に向かって進めば、同じ光景が続いても、怖くありません。

同じ光景が続いていても、目的地に近づく実感があるため「大丈夫」という確信を持って、歩めます。

人生でも同じです。

生きるとは、森の中を歩くようなものです。

当てもなく生きるのは、おすすめできません。

とりあえず前には進めますが、しばらくすると、不安になるでしょう。

「自分は何のために生きているのだろうか」「自分の人生は何だろう」と、人生の迷子になっているのです。

生きている意味が見いだせなければ、体は元気なのに、心は不安だらけになります。

生まれてしまったから、仕方なくただ生きている状態であることに気づき、ぼかんとするのは、

人生で大切なのは、目的地です。

自分の人生に、何らかの目的を作ります。




作品を完成させること、子供の成長を見守ること、人を幸せにすることなど、何でもいいのです。

目的地を目指して生きることができれば、人生の迷子になることはありません。

人生では、同じ光景ばかりが繰り返されることがあります。

家と会社の往復であったり、同じ仕事の繰り返しであったりなどです。

たとえ同じ光景が繰り返されていても、目的地と現在地がわかっているならば、不安にはならないのです。

 「生きるとは何か」を考える言葉 その7

人生の目的地を定め、現在地を確かめる。